

**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者が確認されました  
～マダニに咬まれないように注意しましょう～**

令和8年4月30日(木)、浜松市内の医療機関から「重症熱性血小板減少症候群(以下「SFTS」という。)患者の発生届」が提出されました。SFTSが平成25年3月に感染症法で全数把握対象疾病である4類感染症に指定されて以降、本市では10例目(静岡県で34例目)の発生となります。

## 1 当該患者について

## (1) 概要

年代	居住地	結果判明日	発生届出日
70歳代	浜松市内	4月29日	4月30日

## (2) 経緯

4月24日(金)	発熱
4月25日(土)	発熱、倦怠感
4月26日(日)	発熱(38.3℃) 食欲不振
4月29日(水)	市保健環境研究所のPCR検査でSFTSウイルス遺伝子検出
4月30日(木)	医療機関から発生届提出 現在、入院加療中

## (3) 推定感染経路

屋外でマダニに咬まれて感染した可能性があります。マダニの刺し口は認められておらず、感染経路の特定には至っていません。

## 2 注意喚起について

## (1) マダニに咬まれないようにしましょう

特にマダニの活動が盛んな、春から秋にかけて注意が必要です。

野山や草むら、畑などに入る場合は、耳を覆う帽子、首に巻くタオル、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしましょう。

市販されているマダニ用忌避剤はありますが、マダニの付着を完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りましょう。

なお、屋外に生息するダニ類が感染経路となる「日本紅斑熱」などの感染症もあるため、ダニ類全般への対策が重要です。



(2) 屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう

マダニに咬まれた場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。

発熱・発疹の症状が見られたら、早めに医療機関を受診し、マダニに咬まれた可能性があることを医師に伝えましょう。

(3) 野生動物などの接触にも注意しましょう

野生動物は、どのような病原体を保有しているか分かりません。野生動物との接触は避けましょう。また、動物の死体等に接触することは控えましょう。動物由来感染症に対する予防の観点からも、動物（ネコやイヌ）を屋外で飼育している場合、口移しでエサを与える、動物を布団に入れて寝たりすることなどは控えましょう。

また、動物に触ったら必ず手を洗いましょう。

さらに、動物に付着したマダニは適切に駆除しましょう。

飼育している動物の健康状態の変化に注意し、動物が体調不良の際には、咬まれたりなめられたりしないようにして、動物病院を受診しましょう。

**【報道機関へのお願い】**

- ・患者様及び関係者の皆様への人権の尊重並びに個人情報の保護に、ご理解とご配慮をお願いします。

**【問合せ先】**

浜松市保健所感染症対策課 感染症対策グループ

TEL : 053-453-6118

